

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 7月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	0175700293		
法人名	日本システムサービス株式会社		
事業所名	グループホームいきいき岩見沢		
所在地	岩見沢市志文町1180-47 (電話) 0126-25-7615		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年7月15日	評価確定日	平成20年7月28日

【情報提供票より】 (20年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	4月	2日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人	
職員数	9 人	常勤	4人,	非常勤 5人,	常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	3 階建ての	2 ~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28000~32000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 22000円 暖房費8000円(10-4月)	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(20000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		700 円	

(4) 利用者の概要 (6月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名	
要介護 1	3	要介護 2	4			
要介護 3	2	要介護 4				
要介護 5		要支援 2				
年齢	平均	73 歳	最低	68 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東町ファミリークリニック、江島歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームいきいき岩見沢は、岩見沢市郊外の、自然に恵まれた閑静な住宅地に位置し、目の前には大型レジャー施設北海道グリーンランドが眺望できる。運営者は自身の両親の介護経験からグループホーム創設を思い立ち、当ホームを皮切りに、合わせて3つのグループホームを創設している。建物はアパートを改築した、3階建ての堅固なものであるが、共有空間も個室もスペースがたっぷりで、ゆったりとした生活空間が確保されている。利用者の尊厳を理念の中心に掲げ、管理者の高い理想と信念の下に職員の信頼関係も厚い中で、明るく和やかな生活が営まれている。地域との交流にも熱心で、町内会や老人会の活動にも積極的に参加して地域に溶け込んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念に地域との交流を加えること、市の担当者との交流、出納明細を毎月届けること、家族アンケート実施、多くの同業者との交流、重度化・終末期の方針整備、献立に対する管理栄養士のチェックなど、前回取り組み課題とされたことはいずれも真摯に取り組み、改善している。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議の場で自己評価表を前に管理者が項目ごとに説明しながら、意見を出し合い、文面を作成した。職員は日ごろの業務の中では気づきにくい新鮮な気付きを自己評価の中から得ることができた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開かれ、民生委員、市の担当者、地域包括支援センター、町内会、老人会の各メンバーが参加し、ホームの運営状況、行事、災害対策、自己・外部評価について話し合われている。これまでのところ参加メンバーの理解が必ずしも十分とはいえず、取り立てて取り組みに結びつくまでには至っていない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置していたが意見が寄せられたことはなく、家族アンケートも実施したが、書きやすいような工夫を多々凝らしているにもかかわらず、苦情や意見らしきものは寄せられていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して、カラオケ、草取り、花壇作り、お祭りなどに参加している。また、老人会にも入会していて、誕生会、敬老祝賀会などに参加している。ホーム便りは町内にも回覧している。町内会婦人部からは、子どもたちがホームに遊びに来訪することへの橋渡しの提案を受けている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回評価の指摘を受けて理念に地域との交流を付け加え、従来のケア理念と合わせて2本立てとした。	○	法人の理念をホームのケア理念とし、それに地域理念を加え、さらにその他に運営方針（ケア理念）として3項目をホーム案内に掲載しており、理念がいくつかにわたって混み入っているのを、整理することを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア理念と地域密着の理念がホーム内の見やすいところ2ヶ所に掲げられ、職員はカードに記載した物を携行して周知に努めている。申し送りや勉強会の場で、事例に応じて理念を引き合いに出し、実践に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、各種の行事に参加している。また、老人会にも入会していて、誕生会、敬老祝賀会などに参加している。ホーム便りは町内にも回覧している。町内会婦人部からは、子どもたちがホームに遊びに来訪することへの橋渡しの提案を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議の席で自己評価表を前に管理者が項目ごとに説明し、意見を出し合いながら文面を作成した。職員は日ごろの業務の中では気づきにくい新鮮な気づきを得ることができた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開かれ、ホームの運営状況、行事、災害対策、自己・外部評価について話し合われている。これまでのところ参加メンバーの理解が必ずしも十分とはいえず、取り立てて取り組みに結びつくまでには至っていない。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所を訪問して、勉強会や各種行政サービスの情報を得たりするほか、市の担当者が来訪してアドバイスを提供してゆくなどの機会も多く、交流は緊密である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便り「しらかば」を発行し、ホーム全体の様子のほか、家族や地域住民の関心を引くような情報を載せている。個人別に様子を知らせる手紙、金銭出納コピーも併せて送付している。必要に応じて来訪時面談、電話連絡も緊密に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していたが意見が寄せられたことはなく、家族アンケートも実施したが、書きやすいような工夫を多々凝らしているにもかかわらず、苦情や意見らしきものは寄せられていない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	世情の例に洩れず、新人の定着には苦勞しているが、一旦定着した職員は長続きしているので、利用者との関係で困惑することは少ない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報は多く集めて職員に紹介し、できるだけ受講するよう勧めている。年に4人程度は会社として研修派遣している。受講者はホーム内で研修報告会を行っている。また、ミーティングやカンファレンスの折、内部研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	知り合いのグループホーム2ヶ所と交流があり、職員も含めて、見学し合うなどしている。南空知のグループホーム協議会には目下加入検討中である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近の入居者が少ないので事例は少ないが、入居に先立って見学に来訪してもらい、管理者が自宅や病院を訪問して十分納得を得られるよう、勤めている。入居の後も希望に応じて時折帰宅外泊をしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事に関連する作業は、危険を伴う煮炊きに関すること以外、買い物から食材処理、味付け、盛り付け、片付け、食器洗いまで大概のことを利用者と一緒にやっている。昔話や子育ての話を聞いたり、ミシンがけを教わったり、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩中や家の前のベンチでの休息中など、日常的に会話を持つことに努め、本人の希望、意向の把握に努めている。注意深く観察することによって、特定の様子の変化から様々な隠れた気持ちを汲み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望や要望を聞き、主治医や関係者からの情報を合わせて職員で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。作成後は、本人、家族に説明してコピーを渡し本人や家族が保管している。センター方式を採用して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、基本的に3ヶ月毎に見直しを行っている。帰宅願望や外出が多くなったり、体重減少、排泄の変化、体調変化などに応じて随時見直しを行い、現状に即した介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて、美容院、通院、お寺参り、買い物、喫茶店などの送迎を職員が柔軟に対応している。退去した、一人暮らしの以前の利用者を時々訪ねて、様子を見るなどの支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、協力医療機関の往診はあるが、利用者の希望により、かかりつけ医の受診を継続して適切な診療が受けられるよう、職員が、送迎を行い主治医と相談しながら柔軟な支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	24時間の医療連携体制を取っている。重度化した場合における（看取り）指針を作成し、看取り介護についての同意書と医療連携同意書を取り交わしている。医療連携の充実を図るため、介護に関して理解の得られる看護師を現在募集中である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に恥をかかせるような言葉使いや「違う」という否定的な言葉を使わないで、利用者からの希望や要望を必ず受け止めるようにしている。トイレ誘導も「秘密の場所に行こう」と声をかけている。重要書類は金庫に保管、個人記録は事務所で保管している。	○	面会簿として1冊のノートを使用しているため、プライバシーの面からも個別記録の方法などを考えて、今後取り組むことを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて、あせらずに待つ介護を合い言葉に、希望に沿った暮らしができるように支援している。利用者が、気軽に言葉がけできるように、あえて忙しそうにしないで一緒に過ごすことを全職員は心がけて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に買い物に行き、利用者の食べたい食材なども選んで買い物をしている。翌日の献立は、利用者の希望などを取り入れ、夜勤者が作成している。料理、配膳、片づけなど利用者と職員が一緒に行い、食事も、利用者とは話を楽しみながら食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は、毎日午後に入浴ができるようになってきている。入浴拒否者もいるが、居室で声かけするなどの対応で週2回の入浴ができるように支援している。一人で入浴可能な利用者には、温度調節、浴槽移動など危険が無いように声かけをしながら見守っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や習慣などを見極めて、本や新聞を読んだり、音楽を聴いたり楽しく生活できるように支援している。カレンダー作りや写真貼り、布切りなどリハビリを兼ねて楽しんで貰うようにしている。牛乳パックで椅子を作り、児童館などに寄付をする予定である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の悪い日以外は、毎日近くの公園などへ散歩に行っている。利用者の希望に沿って、カラオケや買い物などに出かけている。酒造工場、ガラス工房見学など、外出の機会をつくり楽しんでいく。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しないで、利用者が自由に外出できるようにしている。利用者の安全の面からも、職員が担当者の居場所を常に把握して、外出した時は一緒に出かけるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を作成し、年2回消防署の指導のもと避難訓練、誘導、通報、消火などの訓練を行っている。運営推進会議で、地域の連絡網の作成、体制作りを依頼しているところである。	○	災害時の、地域連絡網を作成する予定なのでその取り組みを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量を記録し、体調に合わせてお粥、麺類、野菜ジュースなどの工夫をして摂取できるようにしている。前回の外部評価を踏まえ、献立は、同法人が経営するグループホームの管理栄養士に週1回見て貰い指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、行事の時などの写真や職員と利用者と一緒に作成したカレンダーや日めくりなどが飾られている。テーブルには、季節の花が飾られ、利用者は椅子やソファで思い思いにゆったりとくつろいでいる。不快な音や光に注意して、カーテンなどでこまめに調節して過ごしやすいように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には、利用者と職員が共同で作成した表札がかけられている。居室には、利用者の使い慣れた家具や、仏壇、写真などが置かれ、誕生会やゲーム時のプレゼントも飾られて、本人が居心地良く過ごせるように配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。